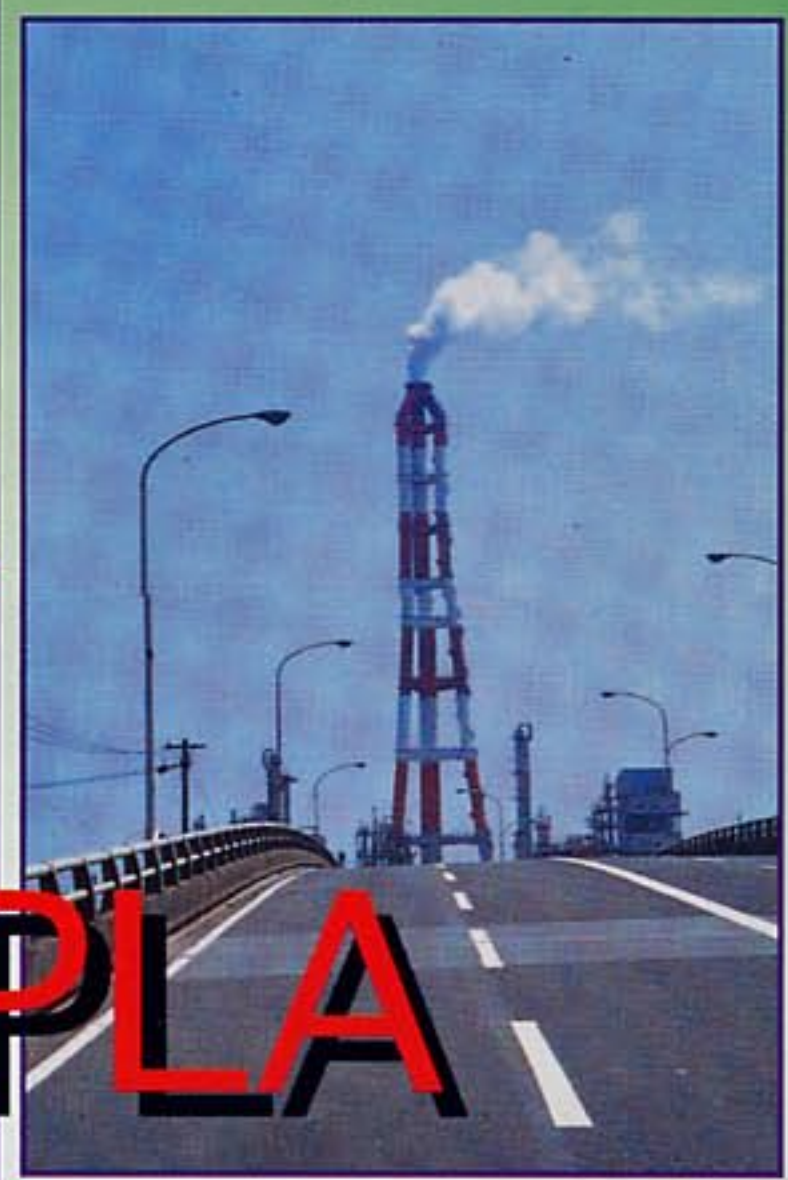
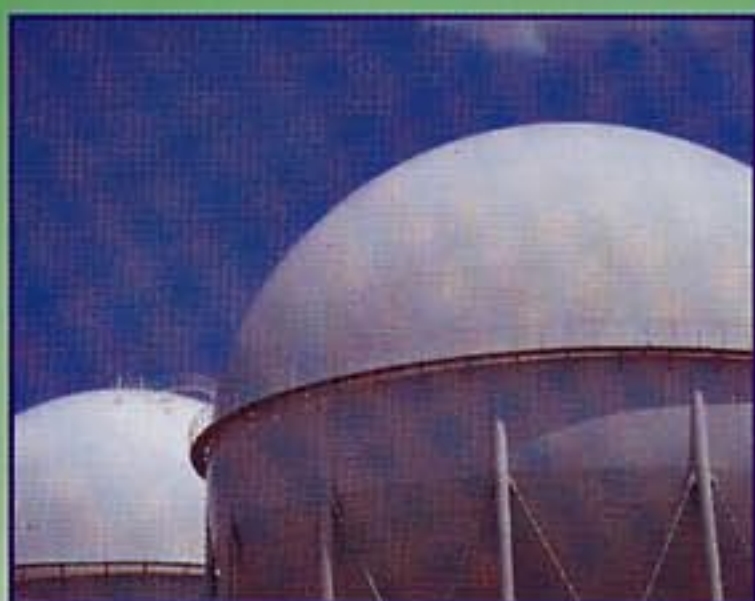


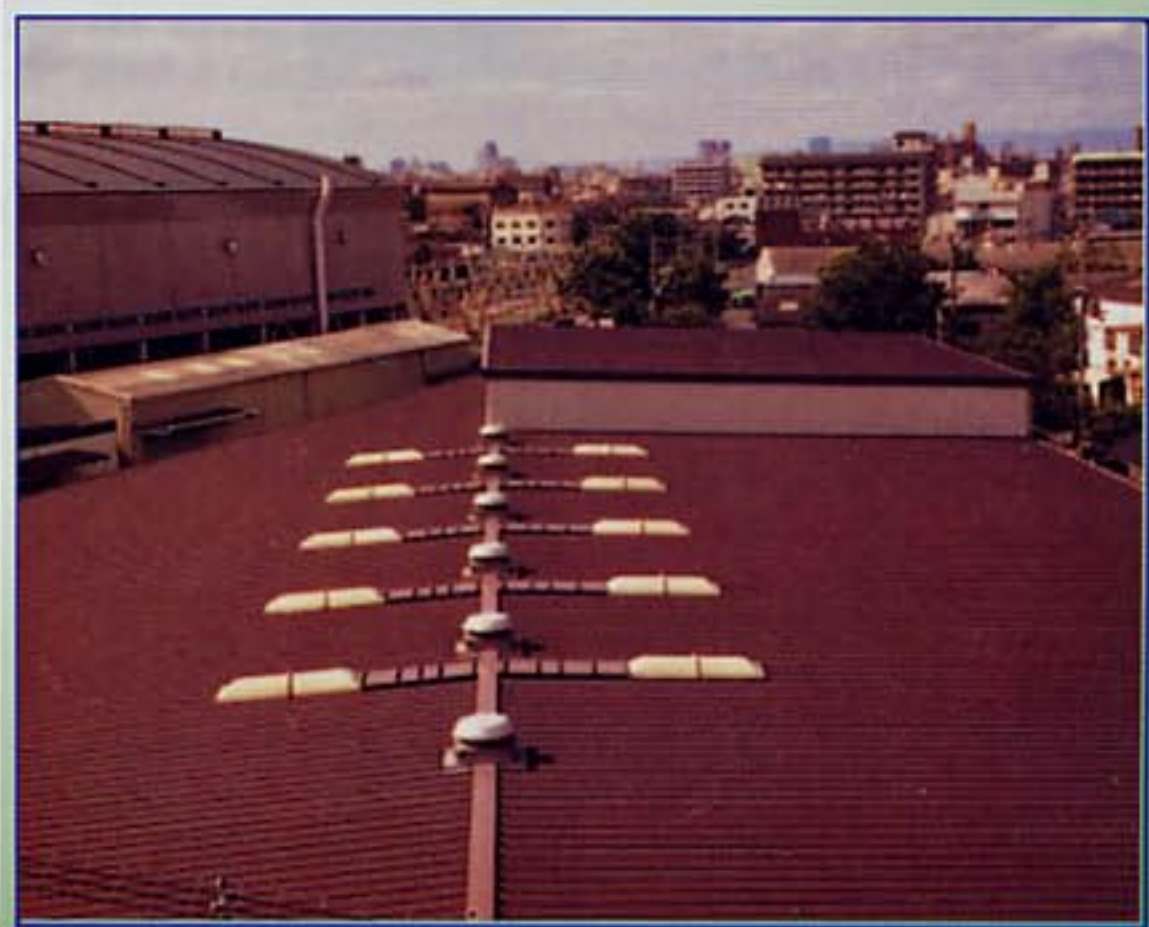


無希釈1液 自己架橋形エポキシ樹脂さび止め塗料

エポプラ



EPOPLA



エポプラは無鉛さび止め塗料です。

鉄鋼構造物、屋根のトタンなどの劣化・腐食を防ぐ、さび止め塗料は、長期にわたり防せい(錆)効果を発揮することが最大のポイントになります。またこの防せい(錆)性能を持続するためには、塗装時における均一な膜厚を確保することも重要です。エポプラは、特殊自己架橋形エポキシ樹脂による抜群の浸透性、付着力で強靱な塗膜を形成し、素材への水分・酸素の透過を防止します。エポプラは、無希釈1液形ですので、使いやすく、容易に膜厚管理ができるさび止め塗料です。

無希釈1液 自己架橋形エポキシ樹脂さび止め塗料

エポプラ

特長

- 防せい(錆)性に優れています。
JIS K 5625 (シアナミド鉛さび止めペイント)と同等以上の防せい(錆)性を有しています。
- 無鉛さび止め塗料です。
有害なクロム・鉛などの重金属を含まない、安全なさび止め塗料です。
- 付着性が優れています。
これまでの2液形エポキシ樹脂に匹敵する付着性で強靱な塗膜を形成します。
- 使いやすく、均一な膜厚が得られます。
無希釈で塗装でき、一定の膜厚が確保できます。
- 可使時間、塗装間隔時間に制限がありません。
1液形ですので可使時間がなく、また2液形塗料のような塗装間隔に制限がありません。
- 速乾性で工期が短縮できます。

用途

- 建築物 : 鉄鋼構造物、空調機器、階段、屋根、ダクト
- プラント類 : 各種タンク(外面)、パイプ類
- 鉄塔 : 送電鉄塔、看板

適応素材

- 鉄骨、鋼板 ● ステンレス鋼板 ● 亜鉛鉄板 (電気亜鉛めっき鋼板、熔融亜鉛めっき鋼板)
- 着色亜鉛鉄板 アルミニウム板

無公害の高防せい(錆)顔料を用いたエポプラの試験結果をご覧ください。

塩水噴霧試験 (500時間)

試験条件 テスト板：軟鋼板
ケレン程度：脱脂
さび止め膜厚：34μ



下塗り	エポプラ	アルキド樹脂系さび止め	フェノール樹脂系さび止め	2液形エポキシ樹脂さび止め	1液形エポキシ樹脂さび止め
上塗り	2液形ポリウレタン樹脂塗料	合成樹脂調合ペイント	2液形ポリウレタン樹脂塗料	2液形ポリウレタン樹脂塗料	2液形ポリウレタン樹脂塗料

試験条件 テスト板：発錆した軟鋼板
ケレン程度：2種ケレン
さび止め膜厚：34μ



下塗り	エポプラ	アルキド樹脂系さび止め	フェノール樹脂系さび止め	2液形エポキシ樹脂さび止め	1液形エポキシ樹脂さび止め
上塗り	2液形ポリウレタン樹脂塗料	合成樹脂調合ペイント	2液形ポリウレタン樹脂塗料	2液形ポリウレタン樹脂塗料	2液形ポリウレタン樹脂塗料

適応旧塗膜と適応上塗塗料

適応旧塗膜
・合成樹脂調合ペイント
・ポリウレタン樹脂塗料
・塩化ゴム樹脂塗料
・エポキシ樹脂塗料
・アクリル樹脂系トタンペイント (アクリルシンナー希釈形のみ適応)



下塗り
エ ポ プ ラ



適応上塗塗料 (商品名)
● エポキシ変性ポリウレタン樹脂塗料 (エポール)
● アクリルシリコン樹脂塗料 (1液ワイドシリコン)
● ポリウレタン樹脂塗料 (ワイドウレタン) (1液ワイドウレタン) (ワイドルーフ) (ラフトンウレタンエナメル)
● 水系アクリルシリコン樹脂塗料 (水性ベスコロ)
● 特殊アクリル樹脂塗料 (アクリルバーン) (メタルトップ) (ニューモルコン)
● アクリル樹脂系トタンペイント (アクリルエポール)
● 合成樹脂調合ペイント (エスコートホープDX)
● 合成樹脂トタンペイント (サンルーフ)

他種塗料との比較試験結果

項目	塗料 エポブラ	アルキド樹脂系 さび止め塗料	フェノール樹脂系 さび止め塗料	2液形エポキシ樹脂 さび止め塗料	1液形高分子エポキシ 樹脂さび止め塗料	備考
乾燥時間 (指触/硬化)	15分/3時間	3時間/8時間	1時間/5時間	50分/7時間	15分/2時間	膜厚100 μ m (Wet) 指触/硬化時間 (23 $^{\circ}$ C)
可使時間	—	—	—	8時間	—	23 $^{\circ}$ C
光沢	21.0	16.0	11.0	13.2	45.4	60度鏡面光沢度 膜厚100 μ m (Wet) 素材：ガラス板
付着性	100/100	82/100	90/100	100/100	100/100	素材：軟鋼板 碁盤目付着試験 テープ剥離 残数/カット数
耐屈曲性	異常なし	われ発生	われ発生	異常なし	異常なし	素材：軟鋼板 180度 折り曲げ 4mm ϕ
耐衝撃性	異常なし	われ発生	われ発生	異常なし	異常なし	Dupont式 500g \times 40cm 落球
耐水性	異常なし	ブリストア発生	ややブリストア発生	異常なし	異常なし	水中1ヶ月間 浸漬
耐塩水性	異常なし	ブリストア発生	ブリストア発生	異常なし	異常なし	5%塩化ナトリウム水溶液 14日間 浸漬
防せい(錆)性	異常なし	発錆	発錆	異常なし	異常なし	塩水噴霧試験 500時間
膜厚(μ m)	34	30	26	35	25	塗付量 0.14kg/m ² /回の場合
流れ(μ m)	250	200	125	225	125	塗装時の粘度に調整 エポブラは無希釈
旧塗膜適応性	良好	良好	良好	良好	膨潤	旧塗膜：合成樹脂調合 ペイント塗装1ヶ月後 の塗膜

塗料性状

項目	内容
展色剤	特殊エポキシ樹脂
顔料	無公害性防せい(錆)顔料
容姿	1液性
色相	赤さび色・グレー・白
光沢	20~30
密度(23 $^{\circ}$ C)	1.28g/ml
粘度(23 $^{\circ}$ C)	700~1,600mPa \cdot s
引火点	24 $^{\circ}$ C
危険物分類	第四類 第二石油類
有機溶剤区分	第二種 有機溶剤等
有機溶剤	キシレン 20~30% エチルベンゼン 20~30%

塗装基準

項目	内容		
乾燥時間	5 $^{\circ}$ C	指触25分、硬化5時間	
	23 $^{\circ}$ C	指触15分、硬化3時間	
	30 $^{\circ}$ C	指触10分、硬化2時間	
塗装間隔	5 $^{\circ}$ C	ターペン可溶性塗料の場合	6時間以上
		上記以外の塗料の場合	36時間以上
	23 $^{\circ}$ C	ターペン可溶性塗料の場合	3時間以上
		上記以外の塗料の場合	16時間以上
	30 $^{\circ}$ C	ターペン可溶性塗料の場合	2時間以上
		上記以外の塗料の場合	8時間以上
標準塗付量	0.12~0.16kg/m ²		
標準膜厚	28~40 μ m		
塗装方法	はけ、ローラー、エアレス		
希釈	なし		

標準塗装仕様

- 鉄鋼構造物
- ダクト
- パイプ

■ 鉄面・ステンレス面仕様

工程	塗料	調合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	標準膜厚 (μm/回)	
1	素地調整	● ディスクサンダー、ワイヤーホイールなどの動力工具を主体とし、スクレパー、ワイヤーブラシ、研磨布などの手工具を併用して、さび、黒皮、油分、付着物などを除去する。(JASS 18 鉄面素地調整2種)。 ● 発錆部はSSPC-SP3 (S1St3) まで除錆する。						
2	下塗り (さび止め塗り)	エポブラ	100	0.12~0.16	1~2	(※注1)	はけ塗り ローラー塗り エアレス塗り	28~40

- ※注1
- エポブラ2回塗りの場合……………3時間以上
 - エポーレ・メタルトップ上塗りの場合……………16時間以上
 - ワイドウレタン・1液ワイドウレタン・1液ワイドシリコン
● アクリルバーン・エスコートホープDX 上塗りの場合……………3時間以上

3	上塗り	適応上塗塗料 <ul style="list-style-type: none"> ● エポーレ ● ワイドウレタン ● 1液ワイドウレタン ● 1液ワイドシリコン <ul style="list-style-type: none"> ● メタルトップ ● アクリルバーン ● エスコートホープDX 					
---	-----	---	--	--	--	--	--

- 屋根
- ダクト

■ 亜鉛鉄板・着色亜鉛鉄板・アルミニウム板仕様

工程	塗料	調合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	標準膜厚 (μm/回)	
1	素地調整	● さび、劣化塗膜、汚れ、付着物を皮すき、ワイヤーブラシ、研磨布、サンダーなどを用いて除去する。 ● 油類は溶剤ぶきで除去する、または高圧洗浄機による水洗いで除去、清掃する。 ● 素地は十分に乾燥させる。						
2	下塗り (さび止め塗り)	エポブラ	100	0.12~0.16	1~2	(※注2)	はけ塗り ローラー塗り エアレス塗り	28~40

- ※注2
- エポブラ2回塗りの場合……………3時間以上
 - 水性ベスコロ・エポーレ上塗りの場合……………16時間以上
 - 1液ワイドシリコン・ワイドルーフ・アクリルエポーレ
● サンルーフ上塗りの場合……………3時間以上

3	上塗り	適応上塗塗料 <ul style="list-style-type: none"> ● 水性ベスコロ ● エポーレ ● 1液ワイドシリコン <ul style="list-style-type: none"> ● ワイドルーフ ● アクリルエポーレ ● サンルーフ 					
---	-----	---	--	--	--	--	--

□ 塗付量は、標準的な数値です。素地の形状や状態、塗装方法、環境などによって増減することがあります。

塗装上の注意事項

- 塗装前に塗料はよくかきはんしてご使用ください。
- 塗付量が少ない場合、防せい(錆)性及び付着性が低下しますので、必ず標準塗付量 (0.12~0.16kg/m²) を塗装して、膜厚28~40 μmを確保してください。また、さびの著しい部分は、ケレン後、増し塗りを行ってください。
- 膜厚が28 μm以下のとき、塗装面に水滴(水分)があった場合、旧塗膜が付着不良のときなどは、ちぢみ現象を生じることがありますのでご注意ください。
- 高温(50℃以上)、高湿度の場合は塗装を避けてください。
- 降雨・降雪・結露の恐れがある場合は塗装を避けてください。
- 粘度調整が必要な場合、また塗装用具の洗浄には、スズカシンナー #2000 をご使用ください。尚、希釈は5%以内にしてください。
- エアレス塗装の場合、塗料ミスト、臭いが居住者、隣家、車両などに飛散しないように、十分養生をしてください。

注) エポブラは、どぶ漬け溶融亜鉛めっき鋼材には適用できません。

■ 塗装時の素地調整は、下記に準じてください。

素地調整の程度	旧塗膜の状況	素地調整		関連規格	
		工具	素地調整後の素地状態	SSPC規格	スエーデン規格
1種ケレン	特に腐食の著しい状態	サンドブラスト	旧塗膜、さびを完全に除去し、金属面とする。	SSPC-SP5 SSPC-SP10	SIS Sa3 SIS Sa2 1/2
2種ケレン	塗膜が劣化し、腐食のはなはだしい状態	ディスクサンダーなど動力工具とワイヤーブラシの併用	旧塗膜、さびを除去し、金属面とする。活膜が存在する場合は残す。	SSPC-SP3	SIS St3
3種ケレン	塗膜の殆どが活膜で部分的に発錆が認められる	ディスクサンダーなど動力工具とワイヤーブラシの併用	劣化塗膜を除去し、発錆部はさびを落とし、金属面をあらわす。	SSPC-SP2	SIS St2
4種ケレン	活膜で、変色・チョーキング・付着物などが多い状態	ワイヤーブラシ、サンドペーパー、スクレーパーなど手工具	粉化物および汚れを除去し、清浄にする。	—	—

容量
色相

エポプラ.....15kg 4kg

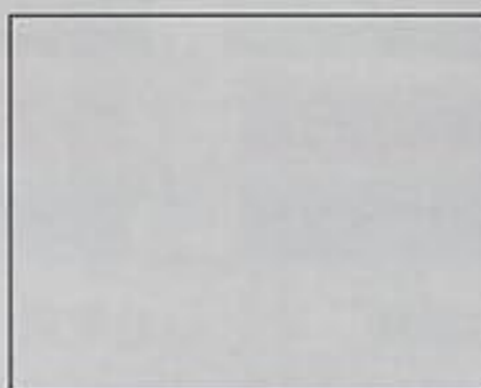
(色は印刷のため
近似色です。)



赤さび色



グレー



白



取扱い上の注意事項

- 引火性の液体ですので、火気のあるところでは使用しないでください。
- 吸入すると有機溶剤中毒を起こす恐れがありますから、換気をよくし、蒸気・スプレーミストを吸い込まないように必ず保護具を着用してください。
- 取扱い作業場所には、局所排気装置を設けてください。
- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
・有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業衣・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 臭いは食料品・飲食物・衣類などに、うつる場合がありますので、塗装場所から遠ざけるか、または養生するなど、十分に注意してください。
- 容器から出し入れするときは、こぼれないようにしてください。もしこぼれた場合には、布で拭き取って、水の入った容器に保管してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときには、医師の診察を受けてください。
- 蒸気、臭いなどを吸い込んで気分が悪くなったときには、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだときには、直ちに医師の診察を受けてください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻孔洗浄を十分に行ってください。
- 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない場所に保管してください。
特に下記場所の保管は避けてください。
・雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器または粉末消火器を用い初期消火をしてください。
- 捨てるときには、産業廃棄物として処分してください。
- 詳細な内容が必要なときには、製品安全データシート(MSDS)をご参照ください。



営業本部 〒530-8411 大阪市北区堂山町1番5号(大阪合同ビル) ☎06-6365-1116 FAX06-6365-1112
技術本部 〒510-0851 三重県四日市市塩浜町1 ☎0593-46-1116 FAX0593-46-4585

札幌支店 ☎0133-60-6311	東京支店 ☎03-5661-2221	名古屋支店 ☎052-411-1255
大阪支店 ☎06-6365-1681	広島支店 ☎082-277-1116	四国支店 ☎0877-24-4621
九州支店 ☎092-938-0071		
旭川出張所 ☎0166-29-6111	東北営業所 ☎0224-82-1633	群馬出張所 ☎027-253-4821
埼玉営業所 ☎048-643-7180	千葉出張所 ☎043-486-0096	神奈川営業所 ☎046-286-3220
新潟営業所 ☎025-271-2345	金沢営業所 ☎076-267-1922	静岡営業所 ☎054-236-0825
三重出張所 ☎0593-97-6115	平野営業所 ☎06-6791-6291	東大阪営業所 ☎072-862-1601
播磨営業所 ☎0791-67-1468	和歌山出張所 ☎073-472-3480	岡山出張所 ☎086-470-2808
松山出張所 ☎089-922-0577	北九州出張所 ☎093-562-1503	熊本出張所 ☎096-237-3342
宮崎出張所 ☎0985-50-6840	鹿児島出張所 ☎099-265-9480	沖縄営業所 ☎098-884-6054

取扱店